

プレス発表資料

報道関係各位

平成28年6月7日

公立大学法人 九州歯科大学

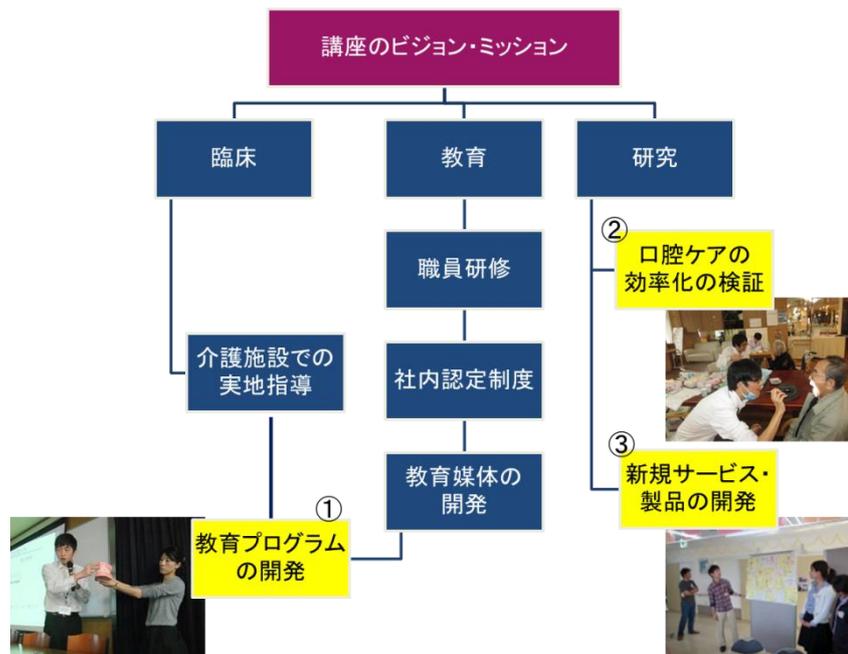
「歯科医療の観点から介護現場の改革を試みる」 — 高齢者のQOL(生活の質)の向上につながる人材育成及び研究 —

【ポイント】

- 介護職員を対象とした口腔ケアに関わる教育プログラムの開発
- 高齢者施設におけるトリアージを用いた口腔ケアの効率化に向けた検証
- デザイン思考を用いたものづくり及び歯科医療サービスの創出

平成26年10月20日(月)に、九州歯科大学は(株)ウチヤマホールディングス及び(公財)北九州産業学術推進機構との間で、医療・介護分野における連携協力協定を締結したことで、同大学内に寄附講座(高齢者支援学講座 秋房住郎教授)を設置しました。これまで、寄附講座の活動主旨を踏まえたビジョン・ミッションを設定し、高齢者のQOL(生活の質)の向上を支える介護職員に主眼をおいた研究を実施し、社会問題化する介護職員の負担低減並びに高齢者のQOL向上に取り組んで参りました。

- **活動の主旨**： 高齢者の QOL(生活の質)の向上につながるような人材育成や研究展開を図り、その成果を地域に還元していくとともに、先駆的モデルとして全国に波及させることを目指した活動を展開します。
- **ビジョン**： 誰もがいつまでも「食べられる」「話せる」「笑える」社会を創ります。
- **ミッション**： 高齢者の摂食・嚥下機能支援のモデルを創り、社会に普及させます。



【プロジェクト概略図】

介護職員を対象とした口腔ケアに関わる教育プログラムの開発

【背景】

近年、超高齢社会の到来と共に人々は生活の質(QOL)や健康を強く意識するようになり、歯・口腔への関心も高くなってきました。そのため、歯科衛生士を始めとする歯科専門職へのニーズが年々高まる一方で、日常的な口腔機能の管理が介護職員の技能の一つとして求められるようになりました。

しかし、介護保険施設の場合をのぞき、有料老人ホーム等では口腔機能管理の方法に関する指導を受けられる機会は少なく、技能を高められる環境が整っていません。また、更なる高齢化の進展と、施設不足により有料老人ホームにおいても高い要介護度の入居者に対応することが増加してきています。

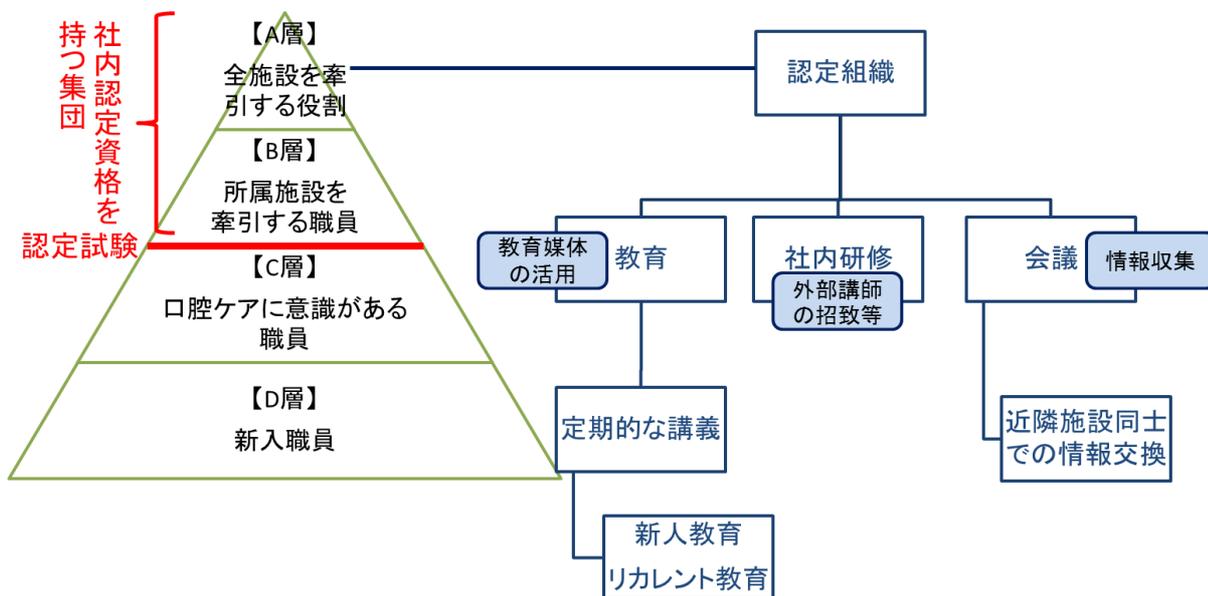
口腔機能の維持・向上は誤嚥性肺炎、転倒リスク、認知症の進行を抑制するとの報告があり、要介護度の重症化を予防する観点からも介護職員が独自に口腔機能向上に関わる知識・技能を修得できるプログラムの開発が望まれています。

【新規性】

歯科専門職種のない環境においても、介護施設が自律的に口腔機能向上に関わる知識・技能を修得できるシステムを構築した点。

【成果】

- ・教育プログラムを開発しました。
- ・北九州市内の5施設において運用を開始しました。
- ・社内認定制度「さわやか口腔ケア認定士」を立ち上げました。
- ・Webネットワークを活用し、遠隔地でも対応可能な動画による技術判定試験を作成しました。



【今後の展望】

今年度はプログラム全体の運用状況の評価を行い、介護事業者が独立し運用可能か検討を行う。

高齢者施設におけるトリアージを用いた口腔ケアの効率化への検証

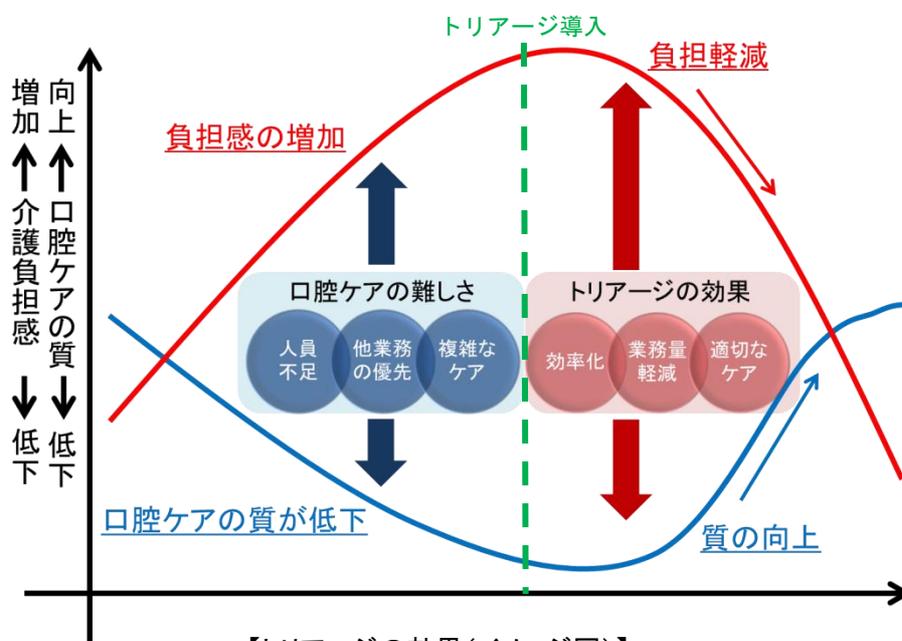
【背景】

口腔ケアは介護現場における日常業務の1つとして一般的になっております。しかし、口腔及び全身状態等により必要性や内容が異なるためケアの方法が複雑になります。特に歯科医療従事者のいない施設では、口腔ケアの内容や介入頻度を判断することは容易ではないため、多くの場合、口腔ケアの内容はスタッフの経験や印象に頼ることになります。これらは口腔ケアの質を低下させるのみならず、介護職員にとっても業務負担が大きくなるため負の連鎖となります。

そこで、高齢者施設における口腔ケアの実施にあたり、トリアージ法を活用することにしました。口腔清掃の自立度と口腔内の状態の重症度を選別することで、介入の程度を客観的にレベル化できることから、効率的かつ適切なケアが実施され、介護職員の業務負担感の軽減につながるものと考えられます。

【新規性】

トリアージの手法を歯科分野に取り入れる事例は本邦初となる。



【トリアージの効果(イメージ図)】

※トリアージとは

災害時発生現場等において多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送をおこなうために傷病者の治療優先順位を決定することをいいます。(日本救急医学会 HP より)

【成果】

- ・口腔ケアに関わるトリアージ手法の試作品が完成しました。
- ・トリアージタグの試作品が完成しました。
- ・口腔ケアの介助に関わる介護負担感の心理特性を計測する尺度(アンケート用紙)を開発しました。



【今後の展望】

新しいトリアージ手法の開発では判定基準の適合性(基準の妥当性や信頼性)の検討が必要であるため、実用化に向けた臨床試験を実施していきます。また、トリアージタグは災害医療現場と介護現場では使用環境が大きく異なるため、介護現場に適したものを作成していきます。

最終的には、口腔ケアの質の向上及び口腔ケアに関わる介護負担感が減少したか確認する方針です。

デザイン思考を用いたものづくり及び歯科医療サービスの創出

【背景】

2025年には日本の高齢者人口は総人口の30%に達すると予測されており、超高齢社会という未知の社会環境の中で、研究機関のシーズと医薬品・医療機器開発や患者側のニーズの一致は容易ではありません。

そこで今回、未来の歯科医療に繋がる「デザイン思考[※]」を取り入れ、高齢社会における歯科医療に対するニーズに「気づく」と共に、革新的なものづくりやサービスの創出を実現することを目的とした研究を実施することにしました。

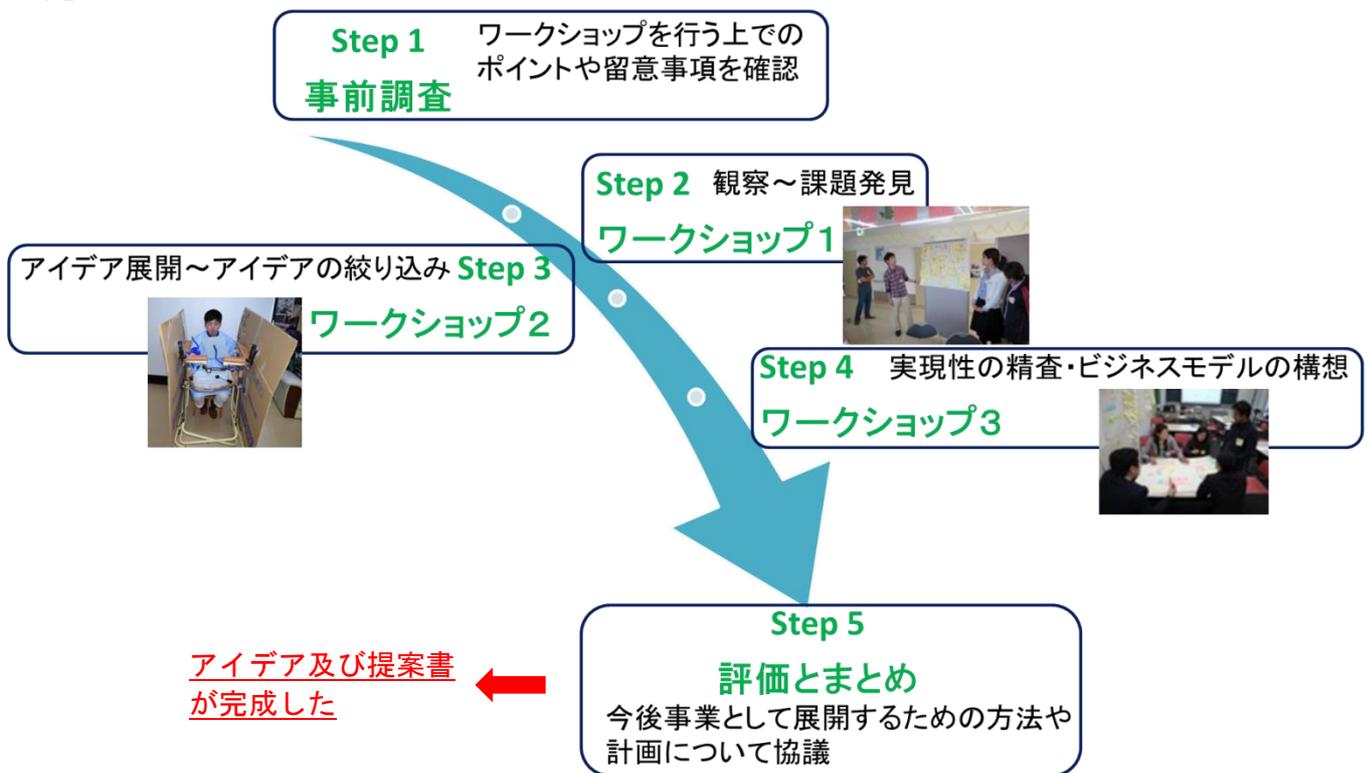
本プロジェクトでは数回のワークショップを実施し、課題の抽出からアイデアの提案、プロトタイプ制作までを行いました。

※デザイン思考：これまでデザイナーが使っていた創造のプロセスを、経営者や営業、サービス業、行政などあらゆる人がそのノウハウを活用して新しいことを生み出す手法。表面的な美しさだけを求めるのではなく「社会の課題を解決するための思考や創造」も意味するもので、「人間中心」「ユーザーを第一」に考える思考方法。

【新規性】

歯科分野にデザイン思考を取り入れた事例は本邦初の試みとなる。

【成果】



【今後の展望】

本プロジェクトで創出したアイデアに関しては、歯科医師・歯科衛生士・高齢者施設のスタッフ・ビジネスの専門家・学生など多様なメンバーが参加し、事業としての実現性について協議しました。その結果、今後の技術開発や制度の見直しによって実現の可能性は十分期待できるものと判断されたため、企業との共同開発に向けたマッチングを予定しています。

【問い合わせ先】

(株)ウチヤマホールディングス

吉岡、石本、草原 TEL: 093-551-0002

(公大)九州歯科大学 経営管理部

尾石 TEL: 093-285-3113

(公財)北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター

藤本、園田 TEL: 093-695-3006